

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25460757

研究課題名(和文) 思春期のうつ病の早期発見と心理教育

研究課題名(英文) Early detection and psychoeducation of major depression in adolescence

研究代表者

下寺 信次 (Shimodea, Shinji)

高知大学・教育研究部医療学系臨床医学部門・准教授

研究者番号：20315005

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：思春期のうつ病と統合失調症を対象とした疾患の認知と希求行動に関する調査を9484名の高校生(15歳から18歳)を対象にアンケート調査した。疾患の認知には症例のビグネットを作成し回答させた。疾患を同定せずにメンタルヘルスの理解力を高めることは友人からの希求行動を増加させる可能性がある。思春期の精神疾患についての希求行動を増加させるためにはメンタルヘルスを認知させることが重要である

研究成果の概要(英文)：We investigated the relationships between help-seeking behavioral intentions and recognition of mental illness without correct identification of the illness name, as well as correct labelling of major depression and schizophrenia using a vignette about a person with major depression and schizophrenia in a cross-sectional survey of 9,484 Japanese high-school students aged 15-18 years. The ability to know mental illness without identifying the disease may increase help-seeking from friends. To promote help-seeking behavior among adolescents, improving their ability to recognize mental illness generally is recommended.

研究分野：精神医学 児童思春期 社会精神医学

キーワード：うつ病 統合失調症 思春期 メンタルヘルス 心理教育

1. 研究開始当初の背景

思春期のうつ病の問題は深刻であり、自殺などの問題に対しても有効な手段が取られていない。本研究では思春期の生徒のメンタルヘルスに関する調査研究を行い、学校精神保健の向上に寄与したい。特に思春期の精神的な不調には家族を巻き込んだ対応が成人以上に重要かつ不可欠となる。本人と家族に有効なメンタルヘルスに関する知識の向上に向けた取り組みを行いたい。

2. 研究の目的

思春期のメンタルヘルスに関する研究はエビデンスに乏しく、我が国においては教育現場での正しい知識と態度の啓発が必要とされている。本研究の目的は学校現場での教職員の精神疾患の知識と対処に関する研修の実施と普及に関する研究から、教育現場での実践的なメンタルヘルスへの対処システムを検討する。また、うつ状態を引き起こすいじめの問題、過度のダイエットの問題、精神疾患の知識の獲得と問題への希求行動との関連を調査することが目的である。さらに、思春期のうつ病ではSSRIなどの抗うつ薬が自傷行為を助長する可能性があるなど、成人よりも家族心理教育などの心理社会的な介入が重要になる。心理教育に関する実践の可能性についても検討する。

3. 研究の方法

対象は高校生(15歳から18歳)とし、スクリーニングには国際的に広く使用されているGHQ-12を使用する。

GHQ-12が4点以上で面接の希望がある生徒を精神科医が面接する。うつ状態の継時的変化は実施が自己記入式でも可能なPatient Health Questionnaire (PHQ-9)で測定する。

心理教育実施群とコントロール群への振り分けはランダムに行う。心理教育は生徒と主要な家族に実施するものとし、1回1.5時間で合計4回行う。コントロール群はスクールカウンセラー、心理士とともにストレスへのコーピングに関する話し合いの場を同じ時間持つこととする。

その後の精神症状評価は学校の協力のもと、経過を追跡する。

4. 研究成果

学校現場で心理教育を行うために2回のメンタルヘルス研修を教職員を対象に実施した。また、引き続き生徒を匿名化したメールにより、メンタルヘルスの個別相談を行った。平成25年度は24件の相談案件があり、すべてに24時間以内に対応した。学術的な活動成果物の内容としては、以下のとおりである。

(1) 軽度の内容も含めていじめ問題と希求

援助行動を自殺念慮を有する集団において調査をし、国際誌に掲載した。

(2) 10%程度の高校生は精神病様体験を有しており、メンタルヘルスの低下を来している者が多く存在する。このような精神病様体験を有する生徒を調査したところ、自殺念慮に関する希求援助行動が少ないという結果が得られ国際誌に掲載した。

(3) 女子の生徒における過度のダイエットが社会問題となっている。正常体重以下の繰り返されるダイエットと暴力行為に関して有意な関連性を認めため、国際誌に掲載した。

(4) メンタルヘルスリテラシーに関する調査では思春期のうつ病と統合失調症を対象とした疾患の認知と希求行動に関する調査を9484名の高校生(15歳から18歳)を対象にアンケート調査した。疾患の認知には症例のビッグネットを作成し回答させた。疾患を同定せずにメンタルヘルスの理解力を高めることは友人からの希求行動を増加させる可能性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

Yamasaki S, Shimodera S, Endo K, Okazaki Y, Asukai N, Usami S, Nishida A, Sasaki T. The recognition of mental illness, schizophrenia identification, and help-seeking from friends in late adolescence. PLoS One 11(3):e0151298, 2016. 査読有 DOI: 10.1371/journal.pone.0151298

Frank F, Wilk J, Kriston L, Meister R, Shimodera S, Hesse K, Bitzer EM, Berger M, Hölzel LP. Effectiveness of a brief psychoeducational group intervention for relatives on the course of disease in patients after inpatient depression treatment compared with treatment as usual-study protocol of a multisite randomised controlled trial. BMC Psychiatry 15(259):1-11, 2015. 査読有 DOI: 10.1186/s12888-015-0633-4

水野 正文、鈴木 道雄、松本 和紀、中込和幸、下寺 信次、盛本 翼、岸本 年史、川崎 康弘、船渡川 智之、根本 隆洋、藤井 千代：地域ケアの時代における精神疾患 早期発見・早期支援の課題と可能性 精神医学 57:89-103, 2015. 査読有

Watanabe N, Furukawa TA, Shimodera S, Katsuki F, Fujita H, Sasaki M, Sado M, Perlis ML. Cost-effectiveness of cognitive behavioral therapy for insomnia comorbid with depression: Analysis of a randomized controlled trial.

Psychiatry Clin Neurosci. 69:335-43,2015. 査読有 DOI: 10.1111/pcn.12237

藤田 博一、下寺 信次 精神療法の適応：話題の治療法を中心に/統合失調症の心理教育、精神療法 39:61-65. 査読有

Shimodera S, Watanabe N, Furukawa TA, Katsuki F, Fujita H, Sasaki M, Perlis ML. Change in quality of life after brief behavioral therapy for insomnia in concurrent depression: analysis of the effects of a randomized controlled trial. J Clin Sleep Med. 10:433-9,2014. 査読有 DOI: 10.5664/jcsm.3624

Kitagawa Y, Shimodera S, Togo F, Okazaki Y, Nishida A, Sasaki T. Suicidal feelings interfere with help-seeking in bullied adolescents. PLoS One. 9(9):e106031,2014. 査読有 DOI: 10.1371/journal.pone.0106031

Nishida A, Shimodera S, Sasaki T, Richards M, Hatch SL, Yamasaki S, Usami S, Ando S, Asukai N, Okazaki Y. Risk for suicidal problems in poor-help-seeking adolescents with psychotic-like experiences: findings from a cross-sectional survey of 16,131 adolescents. Schizophr Res. 159:257-62,2014

Shiraishi N, Nishida A, Shimodera S, Sasaki T, Oshima N, Watanabe N, Akechi T, Furukawa TA, Okazaki Y. Relationship between violent behavior and repeated weight-loss dieting among female adolescents in Japan. PLoS One. 11;9(9):e107744,2014. 査読有 DOI: 10.1371/journal.pone.0107744

Tochigi M, Nishida A, Shimodera S, Okazaki Y, Sasaki T. Season of birth effect on psychotic-like experiences in Japanese adolescents. Eur Child Adolesc Psychiatry. 22:89-93,2013. 査読有 DOI:10.1007/s00787-012-0326-1

Morokuma I, Shimodera S, Fujita H, Hashizume H, Kamimura N, Kawamura A, Nishida A, Furukawa TA, Inoue S. Psychoeducation for major depressive disorders: a randomised controlled trial. Psychiatry Res. 210:134-9,2013. 査読有 DOI:10.1016/j.psychres.2013.05.018

Watanabe N, Furukawa TA, Shimodera S, Katsuki F, Fujita H, Sasaki M, Suga Y,

Kakeda K, Perlis ML. Can assessors in a psychotherapy trial be successfully blinded? Analysis of a randomized controlled trial on psychotherapy for refractory insomnia in residual depression. Psychother Psychosom. 82:401-3,2013. 査読有 DOI:10.1159/000353174

Kawamura A, Shimodera S, Furukawa TA, Kumagai N, Nishida A, Mizuno M, Inoue S. Effect of depression-related somatic pain on treatment satisfaction and daily living functions. Int J Psychiatry Med. 46:27-38,2013. 査読有 DOI: 10.2190/PM.46.1.c

〔学会発表〕(計 4 件)

下寺 信次、藤田 博一、上村 直人、渡辺 範雄、古川 壽亮、森信 繁 精神療法は有効なのか？エビデンスを問う うつ病の心理教育 第 12 回日本うつ病学会総会・第 15 回日本認知療法学会 2015 年 7 月 17 日～19 日 慶応プラザホテル・NSスカイカンファレンス、東京都

下寺 信次、女性のうつ 月経周期と関連したうつ 月経前症候群、月経前不快気分障害を中心に 第 12 回日本うつ病学会総会・第 15 回日本認知療法学会 2015 年 7 月 17 日～19 日 慶応プラザホテル・NSスカイカンファレンス、東京都

渡辺 範雄、古川 壽亮、下寺 信次、香月 富士日、藤田 博一、佐々木 恵、佐渡 充洋、Michael Perlis うつ病併存不眠に対する短期睡眠行動療法の費用対効果分析;RCT の結果から 第 110 回日本精神神経学会総会 2014 年 6 月 27 日パシフィコ横浜、神奈川県

Shimodera S, Kawamura A, Fujita H, Iwagawa C, Akamatsu M, Suga Y, Doi E, Fuji M, Gibo N, Kamimura N, Furukawa TA, Morinobu S. Effect of depression-related somatic pain on treatment satisfaction and daily living functions. European Psychiatric Association(EPA) 22nd European Congress of Psychiatry 2014 年 3 月 1 日～4 日 Internatinal Congress Center, Munich, Germany

〔図書〕(計 1 件)

下寺 信次、統合失調症 (初回エピソード) 今日の治療指針 総ページ数 2193 (2 頁)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下寺 信次 (SHIMODERA, Shinji)
高知大学・教育研究部医療学系臨床医学部
門・准教授
研究者番号：20315005

(2) 研究分担者

赤松 正規 (AKAMATSU, Masanori)
高知大学・教育研究部医療学系臨床医学部
門・助教
研究者番号：10527592

渡辺 範雄 (WATANABE, Norio)
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究セ
ンター・その他部局等
研究者番号：20464563

須賀 楓介 (SUGA, Yosuke)
高知大学・医学部附属病院・特任助教
研究者番号：20527593

藤田 博一 (FUJITA, Hirokazu)
高知大学・教育研究部医療学系医学教育部
門・准教授
研究者番号：70380326

市来 真彦 (ICHIKI, Masahiko)
東京医科大学・医学部・准教授
研究者番号 80348515